

**第57回藤沢市地産地消推進協議会及び
令和6年度第2回藤沢市地産地消推進事業実行委員会 議事録**

1 開 会

竹中補佐

定刻より若干早いんですが、皆様お揃いいただきましたので、ただいまから第57回藤沢市地産地消推進協議会を開催させていただきます。本日、司会を務めます農業水産課の竹中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

恐れ入ります。着座にて続けさせていただければと思います。会議中の発言についてでございますが、挙手をしていただきまして、マイクを使ってお名前を名乗っていただいてからご発言くださいますようお願いいたします。

本日の会議の記録を作成する関係上、発言内容を録音させていただいておりますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

本日の会議につきましては、19名の協議会委員のうち13名の方がご出席くださっております。藤沢市地産地消推進協議会規則第5条に規定する会議成立要件の過半数を超え、会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。

ここで委員に変更がありましたので、ご紹介をさせていただきます。藤沢青年会議所からこれまでご選出いただいております鈴木様に代わりまして、新たに藤田様を委員として選出いただきました。協議会開催直前の変更でございましたので、委嘱状につきましては、後日事務局からお渡しさせていただきますということで、ご了承いただきますようお願いいたします。

また、本日ご都合により欠席の方がございますので、ご報告をさせていただきます。藤沢市農業経営士協議会の加藤委員、わいわい市藤沢店の松井委員、江の島片瀬漁業協同組合の北村委員、藤沢市商店会連合会の青木委員、市民公募の大塚委員、藤沢市立小学校長会の加瀬委員となります。

次に本日の議題に入ります前に、お手元の資料の確認をさせていただきますと思います。最初に次第になります。裏面が名簿となっております。続きまして、資料1-1令和6年度地産地消に関するアンケート結果、事前にお送りさせていただいたものになるかと思います。こちら1-1と書いてあるものになります。続きまして1-2令和6年度地産地消に関するアンケート結果資料編ということで、こちらも事前に送らせていただいております。1-3地産地消に関するアンケート結果の推移ということで、令和2年から6年の推移が記載されているもの。こちらA4の横でホチキスどめされているものになりま

す。続きまして資料2、令和6年度藤沢市産地消推進事業実行委員会事業計画中間報告ということで、こちらもA4縦でホチキスどめさせていただいているものになります。続きまして資料3次年度事業計画に向けた検討課題ということで、A4横のホチキスどめのものになっております。よろしいでしょうか。お手元過不足等ございませんでしょうか。最新の名簿とともにですね、参考資料としまして、この度新しく藤沢市畜産会で作成した藤沢市の畜産というリーフレットを机上に配付させていただいております。後ほどご参照いただければと思います。またこちらも机の上に閲覧用として、第5期藤沢市地産地消推進計画を置かせていただいております。よろしいですかね。はい、ありがとうございます。

本日の会議につきましては全ての議題を公開としておりますが、傍聴希望者はおりませんでした。

ここからの進行につきましては、立石会長にお願いいたします。立石会長よろしくお願いいたします。

2 議 題

立石会長

日本大学の立石です、よろしくお願いいたします。本日はお忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。まずは御礼申し上げたいと思います。

何か挨拶をしてくださいということなんですが、研究室で毎年冬野菜を栽培して、この時期収穫になるんですけども。大抵の年はですね、重いか何とかって学生はなかなか持って帰らないんですけども、さすがにキャベツが1000円ぐらいになりますと飛ぶように売れまして、完売してるような状況で地産地消をしているような感じで貢献しております。なかなか皆さん現金なもんだなというのが、農業をやっている一番思うところであります。

本日の協議会なんですけども、事務局からの報告が1件予定されております。その後実行委員会の方に移りまして、事務局からの報告が1件と、その後部会に分かれての意見交換を予定しているということです。

早速ですけども議題の1番、令和6年度の地産地消に関するアンケートの調査結果について、事務局の方から説明をお願いいたします。

相原

皆様お世話になっております。農業水産課の相原と申します。私の方から、地産地消に関するアンケートの調査結果について説明させていただきます。以降着座にて失礼いたします。

お手元には資料1-1から1-3まで3種類配布させていただいております。1-1と1-2につきましては、今年度の11月に実施をいたしました、アンケートの調査結果になります。こちらにつきましては、時間の都合上全ての問いに対する読み上げは割愛させていただきますので、事前にお送りしております資料ではございますので、何か気になる点等ございましたら、この後の質疑応答の際にお伺いできればと思います。

資料1-3、こちらの資料をご覧くださいと思います。こちらは、地産地消に関するアンケートが開始から5年間経過しましたので、5年間の推移で特に気になる数字のところをピックアップして取り上げてまいりたいと思います。

では表紙をめくりまして、1ページ目ですね。最初の問いで、地産地消に関心があるかという問いに対しまして、関心があると答えた割合ですね。こちら5年間とも、50%以上市民の皆様が関心を持たれておりまして、地産地消への関心度が高くなっております。関心が高い、関心があると答えた理由としては、新鮮で美味しい農産物が手に入るから、地域の活性化に繋がるからといった記述が多く見受けられました。

次にいきます。次の問いが、購入する農産物の産地をどの程度気にしているかという問いに対しまして、こちら白黒でちょっと見づらくなってしまってるんですが、グラフの上の部分の90%台で推移してるものが国産で、下の50%前後で推移しているのが藤沢産になります。これも色がついていてもう少し見やすかったんですけど、白黒でわかりづらくなっていて申し訳ないです。購入する際に国産かどうかというところの点で、気にしていると答えた市民の方は、いずれの年も90%を超えているのに対して、藤沢産かどうかというところを気にしていると答えた市民の方は約50%程度にとどまっています。合わせまして、別の問いで、農産物を購入する際に重視する点の中で、産地を重視すると答えた人が30%程度であるのに対して、購入する際に価格を重視すると答えた割合は70%を超えておりまして、自由記述の中でも国産であれば、産地に関係なく安い方を購入すると答えた記述が多く見受けられました。

次に移ります。市内の農産物の旬の時期を知っているかという問いに対しまして、あまり知らない、もしくは全く知らないと答えた割合は、令和2年度に比べて令和6年度は5%減少して、58.6%という結果になっていますが、いずれの年もまだ50%以上を占めているような形になります。自由記述の中では、どのような時期にどういったものが生産されているのか知りたいという記述も多く見受けられました。

次に移ります。藤沢産のロゴマーク。こちらを目にしたことがあるかという問いに対して、あると答えた割合は、調査を始めた5年間で7.3%上昇して現時点は43.7%です。令和5年度と比較すると横ばいなんですけれども、5年間で上昇したような形になります。実際にこちらのロゴマークシールなんですけれども、販売されている農水産物にシールとして貼ることができるように農業水産課で配布をしております、令和2年当時は1年間で13万枚の配布だったところ、12月末の時点で、今年度は約50万枚を農家さんですとかJAの方にお渡しをしております、大体5年間で3.8倍ロゴマークシールが出てっているような形になります。ですので、出荷する農産物等へのシールを貼付する農家さんは年々増加しているような形になっております。

次に移りまして、最後の問いになるんですけれども、地産地消の生産物を購入して、地産地消を応援しようと思うかという問いに対しまして、既に応援しているまたは応援したいと思うと答えた割合はいずれの年も約90%と高い水準となっています。ただこちらに対しまして、自由記述の中では、どのようなものが購入できるかわからないですとか、どこで購入できるかわからないという記述も多く見られまして、どういった情報があれば地産地消に取り組みやすくなるかという問いに対しましては、約70%が直売所などの購入できる場所の情報と回答しています。また、効果的だと思う取り組みはという問いに対しましては、約80%が量販店での販売と回答しております、生活に身近な場所での販売が求められていることがわかります。

次めぐりまして、これまでのまとめになります。まず市民の多くは地産地消に関心があり、藤沢産を応援したいと思っている。農産物を購入する際に多数の人々が国産であることは意識しているが、藤沢産であることに関しては意識が半減しているという形でして、国産であれば価格で比較して購入する人が多いことがわかりました。

次めぐりまして、市民の半数以上に市内産の農水産物の旬の時期を知られていないということもわかりました。また藤沢産のロゴマークの認知度は43.7%まで上昇しております。こちらは第5期の地産地消推進計画では、令和8年度までに、認知度50%を目標値に掲げております。

めぐりまして、最後のページです。特に市民から求められていることは、購入できる場所に関する情報提供と、あとは量販店など身近なところで購入ができる環境整備が求められています。

	これらの結果は、次年度以降の事業計画等を策定する際に活用していきたいと考えております。事務局からは以上になります。
立石会長	はい、ありがとうございます。ただいま事務局から説明がありましたが、皆様からご意見やご質問がございましたらお願いいたします。
青木委員	確認なんですけども、藤沢産ロゴマークを目にしたことがあるかというアンケート結果があるんですけども、令和5年度と6年度が同じ率になってるんですけども、回答数が一致するというのは目にしたことがないんですけど、実際そうだったということなんですか。
相原	集計作業中、やはりこちらの方も同じ数値なので再度確認はしましたが、前年度の回答数と今年度の回答数全く違うもので、ただ比率としては集計再度しましたが、同じ%だったという結果になっております。
立石会長	ありがとうございます。同じだったということですね。他に何かありますでしょうか？お願いします。
松長委員	同じところで本当に同じ%って珍しいなと思うんです。令和5年までは上がってきてることで、ここで同じになったということで、ロゴマークシールの配布数は増加していると思うんですけども、そういったロゴマークシールの配布数は13万から50万に令和2年から増えていると。ここから令和5年と令和6年度が横ばいで頭打ちになってしまう原因というかこの辺り研究をしっかりとした方がいいのかなと思うんですけども、何かその辺りで思うこと考えてらっしゃることがあるのかをお伺いいたします。
及川課長	かなり生産者の皆さんも積極的に貼っていただいておりますので、農業水産課の窓口にも生産者の方が来てシールを受け取っていただいたりですとか、わいわい市等に配布しておりますので、そこで貼っていただけてるんですけども。それぞれ自身のシールを持っている方等もいらっしゃって、もう貼っていただける方はほとんど全て貼っていただけてるような状況には、今なっているのかなというふうに考えております。50%を目指すということになっておりますので、更なる普及というところで今後検討していかなきゃいけないと思っ

	てるんですけども。例えば湘南青果さんだとか、そういったところにもご協力いただいた上で。ただ湘南青果さんはご自身のところの湘南野菜というブランドを持っていますので、連携できるのであれば市場の方にもですね、力を貸していただいて何とか50%まで持っていければなというふうに考えております。
松長委員	ありがとうございます。もう一点だけ。藤沢産の野菜が量販店でも置かれていて私も見かけますけれども、結構いろいろな量販店のスーパーさんで置いてると思うんですね。それが藤沢産のものが売れ行きがいかどうかというものの要因にレイアウトもあるのかなと思うんです。 例えばスーパーさんで、このスーパーさんは割と藤沢産の売れ行きが比較的良好とか、そういう分析というかデータがあったら教えていただきたいんですけども、何か違いがあれば。
及川課長	データまでは持っていないんですが、地元のものを積極的に使おうという意識を持っていただいている、例えばヨークマートさんですとか、あとヤオコーさんですとか、そういったところは、かなり売り場でもメインのところに地元の野菜を置いていただいているというような状況です。最近ですとさいか屋のところにライフさんもできまして、あちらについては、藤沢産っていうのがなかなかうたっていただけではないとか、鎌倉野菜だとか湘南野菜っていう形で販売していただいているので、このアンケート結果を見るとやはり藤沢市民は、藤沢産って書いてあった方が、愛着を持って買っただけっていうように読み取れるアンケートになっていますので、量販店の方にもこのアンケート結果をお送りして何とか藤沢産と表示していただけるような働きかけをしていきたいと考えております。
立石会長	以上のような対応を行っていききたいということのようです。他はございましょうか？特にないですね。 そうしましたら、次は議題の2その他になりますが、これは何か用意されてますでしょうか？特にないようでしたら、地産地消推進協議会の方は本日予定していた議題は一応これで終了ということになります。一旦進行を事務局の方にお返ししたいと思います、よろしくお願いします。
竹中補佐	立石会長ありがとうございました。これをもちまして、第

57回藤沢市地産地消推進協議会を閉会とさせていただきます。引き続きになります、令和6年度第2回藤沢市地産地消推進事業実行委員会の方に移らせていただきたいと思います。2件目の議題では部会に分かれての意見交換を予定しております。その際は机のレイアウト変更させていただきますので、後ほどご協力をお願いできればと思います。

またこちらから進行につきましては、立石委員長にお願いをしたいと思いますので立石委員長お願いいたします。

令和6年度第2回藤沢市地産地消推進事業実行委員会

1 開会

立石委員長

それでは実行委員会の方を開始します。

2 議 題

立石委員長

議題の1になります、令和6年度の藤沢市地産地消推進事業実行委員会の事業計画の中間報告について、事務局の方から説明をお願いいたします。

河原崎

農業水産課河原崎と申します。座って説明させていただきます。お手元の紫色の表紙の資料2をご覧ください。まず部会に分かれて意見交換する前に、今年度の実行委員会事業の中間報告をさせていただければと思います。

1枚めくっていただいて、項目ごとにスライドになっておりまして、右上の四角囲みの中に予算の執行状況や、目標の達成状況等数字が入れられるものについては、記載されてさせていただいています。

一つ目の取り組みになります、新たな1次製品の創出に向けた農作物の施策支援については、現時点で執行の予定はありません。関係機関の皆様の中で対象となりうるような取り組みがありましたら、ぜひ事務局へ情報提供いただければと思います。なお今年度は他市町村ではありますけども、かながわブランドには湘南ちがさき MILK、湘南伊勢原のさかもとのたまご。つい先日ですね、秦野の峠漬、峠の粕漬けという3品が新しくかながわブランドに登録をされているという動きがございました。

また藤沢市内での取り組みといたしまして、先日さがみ農協さんで営農技術研究大会というのが開催されまして、その中でご報告があったのが、種無しピーマン栽培に試験的に取り組まれている方がいらっしゃるというご報告がありました。種がないという特徴から、調理をする上でとても魅力のある作物かなと思ってまして、作業効率を飲食店さんなども

求められると思いますので、そういったところに販路を拡大するとか、そういった期待ができる商品かと思います。そういった取り組みは事務局の方としても注視させていただいて、今後生産者が増えて、販売する際にはラッピング包装のところで支援をさせていただいたりとか、将来かながわブランドに登録することのご提案などして、少しでも取り組みが進められたらなと考えております。

続きまして、右上3番のスライドになります。未利用魚を活用した加工品の開発支援および給食での活用検討ということで、昨年度試験的に取り組みをした、こちらの取り組みを今年度は、公立小学校特別支援学校の36校でやりたいと考えておりました。漁獲から加工配送までの流れもですね、関係機関の方にご協力をいただけるということにはなっていないんですけども、先月まで粘ってもどうしても魚が獲れずに、原材料が確保できないということで、残念ながらこちらの事業については実施ができなかったという形です。どうしても給食で出す関係上、数ヶ月前から献立を考えないといけないので、今取れても、もう間に合わないということなので、今年度の実施については難しいという状況になっております。

ただ関係機関の方は非常に協力いただけてますし、昨年度試験的に提供した際は学校側からの評価も非常に高かったものですから、何とかですね、次年度以降も取り組みを継続していきたいなというふうに思っています。

続きまして4枚目のスライドの藤沢産農産物を利用した加工品の開発支援に関しましては、2021年からワイン用ブドウを栽培されている社会福祉法人の光友会さんに対してワイン用ブドウの加工支援ということで、委託醸造費の一部を支援させていただきました。支援した加工品については、昨年、販売が開始されまして、11月23日にサンパール広場で開催された藤沢ワイン祭などでもお披露目がされています。

この取り組みによりまして、農福連携の推進であったりとか、荒廃農地の発生抑制などの効果もあったと考えております。藤沢市内では、光友会さん以外にもワイン用ブドウの生産加工に前向きに取り組んでいらっしゃる事業者さんが、いくつかございますので、農業水産課としても今後、先進市への視察などを行って、将来的には市内にワイナリーを作って、市内で完結するような取り組みとして産地のブランド力の向上を図りたいと考えているところになります。

続いて5枚目ですね。特定給食施設での藤沢産米の利用促進につきましては、委員の皆さんもよくご存知かと思うんですけども、今年度は米の流通量が非常に少なくなりました、ニーズおよび価格がともに高まった年度でございました。そんな中で新たな販路を開拓することは、難しいという情勢が

あったところです。ただし前年度に引き続き、前年度開拓した市内の社員食堂さんなどには引き続きお声がけをさせていただいて、今年度も食堂で使っていただいて、併せてパネル展示などもご協力をいただきました。そのような取り組みがありまして、公立小学校養護学校中学校その他民間事業者を合わせて、2月の時点で目標近くの60tのお米を利用いただいているという状況になります。

続いて6枚目のスライドです。小学校や保育園に出向いて生産者の方との交流の機会を設ける事業というのを今年度も行っておりまして、具体的には12月に御所見小学校に畜産会の方にご協力をいただきまして、市内で搾乳された牛乳を使ったバター作り体験と、やまゆりポークの生産者協議会さんと連携して畜産の授業を行って、給食でも牛乳や豚肉を提供させていただいたりとか、あとは保育園には、バケツで育てるお米を教材に生産者の方と一緒に田植え、稲刈りそしてできたお米を保育園で食べていただいて、最後しめ縄作りなどもして、園児と生産者の方が交流する機会っていうのを設けることができました。

次7番目になります。有機農業の取り組み面積を拡大する目標に関連しまして、オーガニック給食の試験提供に取り組むこととしておりまして、今年度は御所見小学校と中里小学校にご協力をいただいて、主要食材としては有機栽培されたサツマイモを大学芋として調理していただいて給食として提供することができました。給食だより等を通じて、家庭への情報発信なども併せて行っております。味、香りともにですね、生徒の皆さん栄養士さん、ともにとても好評な給食を提供することができました。今後の課題といたしましては、価格が割高であるとか、あとは大きさのばらつき、あとは害虫の被害があったところを調理員の皆さん総出で手作業で、切り分けていただいたりとかっていうことで、少し手間が多かったというようなこともご意見でいただいています。そんなことを踏まえて、振り返りの会議なども今後予定しておりますので、課題を出し合って次年度以降も取り組みを継続していきたいと考えております。

続いて8枚目のスライドは、各種マルシェ等の地産地消イベントの実施になります。こちらについては、代表的なものとしたしましてはまず、12月8日に神台公園でオーガニックマルシェを開催させていただいておりまして、今年度につきましては、12月以降もミニオーガニックマルシェとして開催を継続し、今月につきましても、今週末の日曜日に同じ場所で開催するということで、地域に定着したイベントになるように、取り組みを進めているところになります。それ以外にも、藤沢駅北口のサンパール広場で開催されている元気バザールですとか、藤沢駅市役所前のサンセットマルシェ。

それから湘南 T-SITE で開催された夏祭りなどにも出店をして、藤沢産農水産物の PR を行っております。

9 枚目に移ります。花育体験イベントと、あとはお花などを使った藤沢産農産物の PR の事業になりますけれども、花育体験については、先ほどご説明したオーガニックマルシェと同じ日に同じ場所で開催をしております、会場を市役所から変更した他、藤沢市の公式 LINE など活用して参加者を募集した結果、昨年度を上回るご応募をいただいて開催することができました。

農産物を使った PR につきましては、市庁舎への花の展示の他、おばけカボチャであったりとか、稲のはざがけなど、注目していただけるようなものを準備させていただいて、市役所の他、市民センター公民館とか図書館とか、そういったところにも置かせていただいて PR を行っております。

10 枚目になります。緑育体験イベントは今年度新たに取り組むこととしたイベントでして、10 月 26 日に植木生産の組合にご協力いただきまして、無事に開催することができました。当日は参加者の各テーブルを、植木生産組合の皆さんに回っていただいて、きめ細かくブルーベリーの苗を植え替える体験というのをさせていただいて、参加者の満足度が非常に高い講座を開催することができています。

続きまして 11 枚目、ロゴマークシールと SNS を活用した認知度向上のキャンペーンということで、地産地消月間である 10 月から 11 月の間、SNS を活用したキャンペーンを行いました。実施期間内に、条件を満たす投稿が 8 アカウントからありましたので、その方たちにプレゼントするキャンペーンを実施したところでございます。

次に進みます。12 枚目が動画 PV の作成でして、今年度も、藤沢産利用推進店の紹介を行う動画の作成を予定しております、今後、わいわい市で仕入れを行っている店舗を仕入れの様子から撮影して、動画を作りたいと考えております。また YouTube については、我々で撮影したショート動画などの投稿も行っているところになります。

続きまして 13 枚目ですが、藤沢産利用推進店 PR 用の食べ歩きマップの作成ということで、こちらも現在湘南しらすを提供する藤沢産利用推進店を紹介するマップを作成中になっており、年度内に完成を予定しています。

それから藤沢駅周辺の食べ歩きマップも非常に需要が高くて特にホテルなどから追加のご要望がありまして、一時的に在庫がない状況になってますので、こちらの増刷なども行いたいと考えております。

事業としては最後になりますけれども、新たな取り組みとして藻場の保全事業に取り組むこととしておりまして、11 月には片瀬漁港において江の島の海を守ろうフェスタという

イベントが開催されています。それ以外にも今後、藻場保全の活動に取り組んでいらっしゃる江の島フィッシャーメンズプロジェクトさんという団体があるんですけども、海藻の種苗の投入活動を行っておりますので、そういった活動に対して、年度内に支援をしたいと考えております。

長くなりましたが、最後に予算を伴わない事業もいくつかありましたのでご紹介をさせていただきます。第1回の実行委員会で湘南藤沢市民マラソンで農産物のPRをしてみたいかがでしょうかということでご提案をいただきまして、マラソンの実行委員会にお願いをさせていただきまして、当初湘南しらすを提供する予定だったんですけども。今年春のしらすはたくさん取れたと伺ってるんですけども、秋のしらすがほとんど取れなくて、配布できる分の確保ができずに実施ができなかったというようなことがあったのでご報告をしておきます。マラソンの実行委員会からは、今年度は残念な結果だったんですけども、次年度以降もぜひご協力したいと言っていると思いますので、来年度も提供できるものがないかどうかというのを検討したいと思っています。どのようなものが提供するにあたって、いいかどうか委員の皆さんからご意見、うちであればこんなものが提供できますよとかあれば、ぜひ教えていただけるとありがたいと思っています。

それから藤沢産のものがどこで買えるかわからないというようなアンケート結果もありましたけども、藤沢駅周辺では、エリアマネジメント主催運営のファーマーズマーケットが10月から始まっていて、先月までサンパレット広場やサンパール広場で、野菜の販売やフードトラックの出店などがありました。こちらについては今月は2月15日16日に、鵜沼海岸公園に新しくできたスケートボードのハグライドパークで出店されるなど取り組みが進んでいます。

それから、こちらも前回の実行委員会の際に委員の方から情報提供いただいたんですけども、みらい創造財団が運営する辻堂青少年会館で、農家の皆様等から提供いただいた食材を調理するようなイベントっていうのがありまして、市内の養豚農家さんから、豚肉を事業のために寄贈したいというようなご提案もありまして、12月にはそういった顔繋ぎなども行っております。

それから7月から12月までの限られた期間になってしまいましたけども、毎月第2、第4土曜日に旧桔梗屋というスペース公共スペースを使いましてマルシェの開催などを行いました。

16枚目になります。小田急湘南ゲートの6階にある南図書館において、10月に地産地消に関する企画展示を行い、講演会などの実施もしております。その他市内の学校に出向いて、地産地消に関する出前授業などを行っています。

	一応中間の報告としては以上になりまして、最後に予算の執行見込みといたしまして、今年度未利用魚の活用を中心に、執行ができなかった事業がありまして、現在 60 万円ほど予算が残ってしまう見込みとなっておりますので、このまま残ってしまった場合には、戻入を予定しておりますのでご承知おきいただければと思います。長くなりましたが説明は以上になります。
立石委員長	はい、ありがとうございました。ただいま事務局の方から事業計画の中間報告について説明がありました。ご質問やご意見などがございましたらお願いいたします。
神崎副委員長	よろしいですか。体験イベントについてですが、生産者との交流っていうのが小学校でやっていらっしゃるんですが、いつもやっている学校が北部の学校に偏ってるように思えるんですが、南部の学校でやる予定などありましたらお聞かせいただきたいと思います。
河原崎	我々としても、そこが課題と認識してまして、どうしても藤沢市としては北部の学校の周辺に農地があり、その周辺で生産されている農家さんと普段からお付き合いがあって、学校に出向いていただいて交流がしやすいというところが一つあるのと、あとは、その学校の生徒数の問題もあって、規模が大きい学校の場合は、どうしても授業がやりにくいというような事情もあります。今年度は例えば牛乳を使ったバター作りと、やまゆりポークの給食提供と合わせて実施した畜産に関する出前授業については、御所見小学校でやったんですけども、1年前は辻堂にある浜見小学校でやらせていただいたということもありますので、なるべく地区によって偏りがないように、実施していきたいと考えています。
立石委員長	他にございますでしょうか。松長委員お願いします。
松長委員	4のワインのことなんですけれども。藤沢でメイヴっていう珍しいというかそういうブドウを作って、ワインを作っていくと。それ自体はすごくいいと思うんですけども、将来的にこれが藤沢ブランドになっていくにあたって、私も早くワイン飲みたいなと思っていた側なので、こんなこと言うのはあれなんですけど、やっぱり販売をしていくことも大事なんですが、それが商品として、やはりワインってなかなか美味しくなるまでに時間もかかるというか、木も育てていかな

	きやいけないとかもあるので、この予算を執行するに当たって販売にこぎつけることが、ベストではないのかなと。しっかり育てていくことも必要なのかなと思いますので、販売だけが実績ではないのかなという感じを私は今思っているので、その辺り長い目でというか育てることを意識していただきたいなと思います。ごめんなさい意見になっちゃって申し訳ないです。
及川課長	ご指摘の通りだと思います。今回は、醸造費のところでも少し支援をさせていただいたんですけども、こちらの光友会についても、面積もだいぶ広がってきていますし、メイヴが一番この土地に合っているかどうかというところもありますので、それ以外のブドウも少し作り始めました。他の事業者の方も、例えばプティ・マンサンですとかそういった品種にも取り組んでいるところですので、より美味しいワインができるように、我々としてもそういった支援をしていければというふうに考えております。
立石委員長	他いかがでしょうか？尾島委員お願いします。
尾島委員	先ほどの16のところですね、簡単にご説明いただいたんですけど、どんな様子だったか、もうちょっと教えていただきたいなと。それから後で結構なんですけど何かもう少し今度はレポートといいますか、みたいなものが資料みたいなものがあるんでしたら後ほどでいいんですけど、いろいろ教えていただきたいなと思います。
河原崎	まず図書館の方については、市全体で行政支援展示といって市の取り組みを図書館側で関連する図書を集めて、紹介してくれるという事業があるので、それに手を挙げさせていただいて、地産地消とか農業に関する図書コーナーを作ってほしいとお願いをして設けていただきました。来館される方から非常に好評なコーナーになっていて、図書館の方で映画上映会というのが同時期にありまして、「美味しい給食」というタイトルだったと思うんですけど、映画上映会をやるので、その前に合わせて藤沢市の地産地消に関する取り組みのミニ講演会みたいなものやってもらえませんかというお声がけをいただいたので、少しお時間をいただいて導入部分で藤沢市の地産地消の取り組みなどをご説明させていただいたものになります。 あともうひとつ滝の沢小学校については、5年生の学年で

	地産地消に関する授業やっていると。でもなかなか生徒にとって身近なテーマではないので、当事者の方に来ていただいて話をしてほしいということだったので、出前授業を行いました。子供たちに市の取り組みなどを説明しても、つまらない内容になってしまうかなと思ひまして、我々の方で買い物ゲームっていうのを考えて当日はやりました。中身としては、カレーの食材のカードをたくさん用意して、例えば人参でも藤沢産のニンジンと、北海道産のニンジンと、千葉産のニンジンとみたいな三つの種類を設けて、それを自由に子どもたちに選んでもらって、どういう結果になるかっていうのをゲーム感覚でやったような内容になってます。 その中で新鮮さであったりとか価格であったりとか、あとはフードマイレージっていう部分が同じ品目であっても、違うんだよっていうことを買い物を通じて体験していただいたような授業をやっております。
尾島委員	小学校の方は、単発でなくてたくさんできるといいなと思います。図書館のセミナーにいらっしゃった方々の年齢層は高かったのでしょうか。
河原崎	そうですね私も行く前は、比較的年齢層高めかなと思ったんですけど、若い方とか、あとお子さんもいらっしゃいました。
立石委員長	いろいろな事業お疲れ様です。葉山委員の方から質問があるということですのでお願いします。
葉山委員	湘南藤沢市民マラソンありましたね。そのときにしらすが無かったもので提供できなかったんですけど。実は、湘南国際マラソンで、私どもしらすを提供してるんですよ。大体1パックが10gで蓋付きにして、1500ぐらい出しました。どのぐらいの量が欲しいんですよって言われれば、そのようにとっておくことができます。湘南国際マラソンをやる時には、一番先に食べさしたらしいんですよ。衛生的に蓋をつけないといけないっていうもんで蓋をつけて、それでもってずっと並べて走る前に食べさすということをやっております。 そんなことから、この藤沢マラソンに対して、せっかく湘南しらすっていうのがあるんだから、去年は少なかったけど提供するには前もって言うてくだされば、ちゃんとして取っておきますので、そうしてこれからやっていただきたいと思います。どのぐらい何パックぐらい欲しいかっていうもの

を考えてやっていただければいいなと思います。そうすればまた湘南しらすっていうのはこういう味なんだよというのが、みんなに評価されますので一つよろしく願いいたします。

河原崎

ご提案ありがとうございます。ぜひ我々私達としても提供できずにすごく残念な思いをしたので、来年度もし実行委員会事業として取り組みが継続できるようであれば、早めに数量などご相談させていただくようにします。

葉山委員

今は海の状況は、黒潮が相模湾に入ってきて、今いっぱいしらすがいそうですよっていう情報なんです。しかしながら県の行政の方が3月10日までは禁漁と言ってるんですけど。私どもやっぱり、今考えると温暖化であって、その魚の周期がもう本当に変わってきちゃってるんですよ。そういうものも、考えていただければいいなと思います。市の水産課の方でもそういう話なので、県の方へ何とかやり方を変えたらどうですかぐらい言っていたいただければいいなと思ってますよ。

それともう一つは、ここに書いてある藻場が駄目になってるということで、色んな海藻類が食べられちゃうところなんだけど、餌が少ないからボラの稚魚が食べちゃうんですよ。それでわかめの養殖なんかも駄目になっちゃってるということで、本当にいま温暖化で何をどうしようっていうものもできなくなってきたね。品種改良で温かいところに育つようなものを研究して出してもらえれば、きっと良い藻場ができんじゃないかと。水産庁なんかにもお話してもなかなかうまくいきませんね。やっぱりこれは気象で温暖化のせいだから、あと10年経つと鎌倉あたりの海はみんなサンゴが出てきちゃうね。今海水を汲んで組合の水槽入れておきますと水槽の中に白い点々がこうやってつくんですよ。そしたらそれはサンゴの卵だっていうので、それは大変だなっていう。私81になるけど、あと10年経てば鎌倉も全部サンゴの街になってきて、サンゴを今度は中国が獲りに来るようなそんな話ですよ。本当に今の状況を農業なんかもどんどんトマトなんかも改良して、温かいところでもできるような品種改良っていうのをやってるもんですから、やっぱ漁業の方もそういうものをやってもらいたいっていうと、やっぱり藤沢市でも県とかそういう方へ要望して、くださるようによろしく願いいたします。

立石委員長

はいありがとうございます。いろいろ取れる取れないは、自然なもので難しいところありますので。他に何かございますでしょうか？大丈夫でしょうかね。特にないようですので、議題の2の次年度の事業計画に向けた課題検討これについて事務局の方から説明をお願いいたします。

河原崎

そうしましたらこの後、皆さんには部会にわれて、来年度の事業計画に向けた意見交換の方をしていただきたいと思います。分かれる部会につきましては、以前に皆さんのご希望を踏まえまして、次第の裏側の名簿の一番右側の方に記載をさせていただいていまして、概ね皆さん近い位置にお座りいただいています。少しだけですね、机を向かい合わせにして話しやすいレイアウトに変更させていただきたいと思いますので、少しお席の移動等をお願いするようなことがあるかと思いますがけれども、事務局の方でお声がけをさせていただきますので、ご協力をよろしくお願いします。

河原崎

席の移動はお済みでしょうか？よろしいでしょうか？

そうしましたらグループごとに地産地消計画第5期が5年の計画期間のうち3年を過ぎようとしてますので、残り2年間で計画で定める取り組みを着実に実施できるようにどうしていったらいいかっていうのを、ざっくりばらんに意見交換できればと思います各テーブルに農業水産課の職員が入りまして、司会進行の方をさせていただきます。

時間については、一応20分を目安に一度区切らせていただきますので、壁側に時計がありまして今ちょうど3時ちょっと前なので3時20分ぐらいで一度お声がけをさせていただきます。最後にグループ毎にどんな意見交換内容だったかっていうのを発表させていただいて、その結果を来年度の事業計画に反映させていただければと思います。資料については、右肩資料3を使いまして、各テーブル同時進行で進めていきますので、20分間ご意見いただければと思いますのでよろしくお願いします。各テーブルで始めていただければと思います。

部会毎に意見交換を実施

河原崎

すいませんだいぶいろいろご意見をいただいているところでもありますけども、時間も過ぎているので、そろそろまとめていただいて部会ごとに出た意見を、発表していただければと思います。

ふじさわブランド創出部会の方の意見から発表させていただきたいと思います。まず意見としてあったのは、既に一定のブランド力がある農産物であったりとか、加工品が存在するにもかかわらず、まだそれがブランドとして登録されていないという事実がある中で、そこにどういった課題がなぜ登録されていないんだののだろうかとか登録されるとどういうメリットがあるのだろうかというような意見交換をさせていただきました。

例えば梨であったりとか、ブドウであったりとか、加工品であれば、魚醤であったりとか、魅力的なものがありますので、生産者の方に登録されるメリットを感じてもらえるような働きかけというのを取り組みとしてやっていければなと思っています。具体的には、ネーミングであったり、ただ登録しましょうよではなくて、ブランディング含めて、ネーミングであったりとか販路であったりとか、あとは新鮮なものが、旬の時期に消費できるっていうことの魅力っていうところを伝えることによって、同じ国産でも藤沢産を選ぶ動機付けになり、消費が見込まれることが、生産者の方のメリットに繋がるっていうようなこともご意見としていただきました。そういうような視点を持って次年度以降、登録できる品目の方を検討していきたいなと思っております。ブランド創出部会の方については以上になります。続いてが給食の方お願いします。

長澤

給食供給強化部会で話し合った内容としましては、食材費が高騰する中、限られた給食費で質の高い給食を提供し続けるためにはという問題に対しまして、考えられるものとしましては、国の補助金であったりで給食費を賄うっていうところであったりあとは予算、公費の部分で取って計上する。そういったことが考えられるという意見が出ました。

その他にですね、より青果物の使用割合を上げていくためには、給食で活用しやすい野菜を供給していただく。また今現在使用しているもの以外も調査をして、生産者と相談して逐一給食に新たに活用できないかという、今後相談していく必要があるのではないかという意見が出ました。

その他にですね水産物ですね、魚につきましては今現在しらす以外は取れないというような状況にはなっておりますが、その理由としましても温暖化などの影響もあるとは思いますが、あるものをうまく活用して南部の学校などにも活用できていけばいいのではないかと、またその献立を作ってそれに基づいて行っていくんですが、献立の決め方も例年通り

に作らない方がよろしいのではないかと、また時期がずれてきている。魚の獲れる時期であったり、野菜も獲れる時期がずれがあるのではないかというような形でした。あとはですね卸売業者に対しても、一番は地場産のものをより活用してもらうように依頼をするであったり、給食に関しまして農協が取りまとめを行っている事例もあるとのことでしたので、実際に直接農家さんの方から学校に卸す、その限界もあると思うので、取りまとめを行う部署のようなものがあってもいいのではないかというような意見が出ました。以上となります。

相原 最後に、地産地消普及啓発部会です。こちらの話し合いでは、ロゴマークの認知度の部分のところから派生していろいろとご意見を頂戴いたしました。

生産者の方ですとか卸売りの方、実際に消費者として買われている方いろいろな立場の方がいらっしゃったので、それぞれのお話を伺えたんですけども、まず生産者の方としてはロゴマークシールの部分なんですけれども、やっぱりシールを貼る手間だったりとか実際に野菜の包装をプリントして売られてる方もいるんですけど、その辺のプリントのコストだったりっていうところもなかなか手間だったりコストっていうところもあるので、そのあたりの負担が少し生産者にかかっているっていうところと、まだ使っていない方への働きかけっていう部分の話もありましたが、ロゴマークの使用も継続しつつ、別の面でこういった形でロゴマークの周知ができるかというところで、シールにこだわらずに、例えば既にありますが藤沢産の旗があるだけでも目につくとお話もあったので、生産者さんの手間も考えつつ身近にできるような旗の使用だったりとか、あとは例えばもうコロナも明けて落ち着いてきていますので、例えば量販店での宣伝販売、実際に季節の鮮度感のあるようなものを、例えば朝採れのトウモロコシも試食だったりっていうところを、旬をめがけてそういったPR活動もして、ぱっと見て藤沢産っていうのが宣伝できるような機会の創出というところもお話にあったりとか、あと量販店のPRでビデオ上映とかを、お店の一角でさせていただくというお話もありました。その一方で、生産者さんの方の養豚の方がいらっしゃるんですけども、実際にもスーパーに売り込みに過去に一緒に行ったこともあったんですけども、なかなか価格の面で最終的に落としどころがつかないみたいなのところもあり、なかなか今いろんなエサ代とかも高騰している中で、他県と同じ価格で売るっていうのはなかなか

難しい中で、消費者の理解としてなぜ価格が上がっているのか、額面だけではなく、もう少しそういったなぜっていう部分の消費者の理解っていうのも必要ではないかというお話がありました。

また飲食店での話ですと、コストの部分もやはりハードルとしてあるんですが、安定供給がなかなかできないっていう部分での飲食店でなかなか取り扱っていただけない。課題としてはそこもあるんじゃないかっていう話がありまして、どのくらいの量を、こういったものがお店に出してもらえるのかっていうところの情報も、飲食店としては欲しい部分なのではないかというお話もありました。

丸中青果の方もいらっしゃったので、給食の話も少し出たんですが、なかなか学校からこの時期にこれをくださいって言ったときに、旬じゃない時期ではないものを要求されたりすることもあるっていう話があって、栄養士さんのサイドと丸中青果さんとの連携の部分で、ぜひこのメニュー作りの段階とか早い時期から打ち合わせを持ちたいっていうお話がありました。学校間の格差とかも直接生産者さんとやり取りされてる学校はいいんですが、そうじゃない学校との地産地消の利用度の格差ってのも開いてきてるかと思うので、その辺のすり合わせをしていただきたいという話と、あとは生産者さんに対しても、その学校のない時期っていうのも給食に卸す農家さんがいたとして、学校給食がない時期とかのフォローの部分とか、その辺の生産者さんに対するコーディネートもぜひお願いしますというお話がありました。

市場の職員さんの出前授業とかも協力できますよってお話がございました。

飛び飛びになりましたが以上になります。

河原崎

はい、ありがとうございます。本当に予定の時間があっという間に過ぎて、延長するぐらいこれだけ議論が盛り上がるっていうところは、まだまだやれるところがあるっていうことなのかなと思いますので、次年度以降の取り組みの参考とさせていただきます。

お配りの資料の一番最後のページに、今後のスケジュールということで少し書かせていただいているんですけども、次回は令和7年度ということで6月の下旬ごろに、また地産地消計画の進捗状況の報告であったりとか、あとは今年度の実行委員会事業の最終報告、それから来年度の実行委員会の事業計画案のご承認をいただくために開催をさせていただきたいと思いますので、またぜひお集まりいただければと思います。

開催予定日っていうのが、一応このフロアで一番大きい会議室が取れている日付を記載させていただいたもので、皆様のスケジュール上ちょっとこの日できないということもあるので、あくまで参考としていただければと思います。また確定しましたら開催通知等でお知らせをさせていただきます。

あとは事務局からのご案内になりますけども、年度が切り替わるタイミングになりますので、委員の交代等が生じる場合は委嘱解職等の手続きが必要になりますので、事務局までご一報いただければと思います。

以上で議題の2の方は終了とさせていただきます。皆様ご意見ありがとうございました。

立石委員長

ご意見ありがとうございました。本当は20分のところで私が止めなきゃいけなかったみたいなんですけども、活発なご議論いただきまして、委員の先生方、大変ありがとうございました。またおまとめいただきました事務局の皆様にも御礼申し上げます。

最後になりますけども議題の3その他ですが全体を通して何かございますでしょうか？他にないようでしたら、これをもちまして本日の議題は全て終了いたしましたので、これで終わりたいと思います。皆様のご協力におかれまして、会議が円滑に進行できましたので御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。事務局の方にお返しいたします。

3 閉 会

竹中補佐

立石委員長ありがとうございました。それではですね、最後に経済部部長の饗庭からご挨拶申し上げたいと思います。饗庭部長お願いいたします。

饗庭部長

本日はシーズン最強寒波の中、本当にお集まりいただきまして、また長時間にわたりご議論いただきまして誠にありがとうございました。本日頂戴しましたご意見ご提案たくさんいただいたと思います。また、示したアンケートにもですね、たくさんの声をいただいておりますので、新年度の事業計画事務局案を作るに当たっては、また皆さんにご相談をさせていただくこともあろうかと思います。また、今日帰っていい案が思いついたということがあればですね、どしどし農業水産課の方にお知らせをいただきたいと思います。

年度が変わりまして、先ほど6月上旬ってお話をさせていただきましたけども、取り組み早く始めるためにもできる限り早めに開催できるように調整をしてみたいと思いま

す。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

竹中補佐

ありがとうございました。それでは以上をもちまして、令和6年度第2回藤沢市地産地消推進事業実行委員会を閉会いたします。本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。なお、本日事務局でご用意させていただきました藤沢市地産地消計画、こちらの冊子ですね。上にテプラが貼ってあるもの、こちらにつきましては、机の上に残しておいていただければ我々の方でまた次回皆様に使っていただけるようにしたいと思いますので、テプラの貼ってあるこちらの計画につきましてはそのまま机の上に置いていただければと思います。皆様長時間本当にありがとうございました。

終 了